

令和3年度浜松市立篠原小学校 学校評価報告書

1 令和3年度の取組

【学校教育目標】心と心が響き合う学校～自分を高め、共に未来を創る子～

	【徳】にこにこ	【知】きらきら	【体】ぐんぐん
目指す子供像	・自分らしさを大切にする子 ・人との関わりを大切にする子	・じっくり考える子 ・共に学び続ける子	・進んでチャレンジする子 ・健康な心と体で共に活動する子
重点的な活動	・道徳科授業の充実 ・学年集会 ・児童会活動 ・異学年交流	・主体的協働的な授業 ・キャリア教育を 意識した授業 ・ふるさと学習 ・ICT学習	・基本的生活習慣の確立 ・体育科授業の充実 ・体づくりの日常化 ・安全教育

2 自己評価

○ 児童の評価

※「そう思う」と「大体そう思う」と回答した割合

【徳】 にこにこ	進んで挨拶をしている。	79.5%
	自分にはよいところがある。	77.2%
	友達と関わったり、協力したりすることは、楽しい。	94.0%
	ペア学年や学年集会などで、いろいろな人と関わることができた。	86.0%
【知】 きらきら	授業は、楽しい。	85.0%
	授業中、めあてに向けて自分で考えて取り組んでいる。	83.1%
	授業中、友達の考えや思いをしっかり聞いている。	90.9%
	タブレットを使ってドリルパークなどができるようになった。	95.9%
【体】 ぐんぐん	失敗を恐れなくて、挑戦している。	75.3%
	「早寝、早起き、朝ごはん」ができています。	80.4%
	外で元気に遊んだり、運動したりしている。	78.7%
生徒指導・家庭地域との連携	クラスは楽しく安心できる場所だ。	87.1%
	先生は、相談しやすい。	86.7%
	お家の人と学校の話をよくする。	83.7%
	地域の人は見守ってくれる。	88.0%

○ 保護者の評価

【徳】 にこにこ	子供は、進んで挨拶をしている。	75.5%
	子供は、自分にはよいところがあると感じている。	90.3%
	子供は、友達と関わったり、協力したりすることを楽しいと感じている。	96.3%
【知】 きらきら	子供は、授業が楽しいと感じている。	91.1%
	子供は、家庭学習の習慣が身に付いている。	77.9%
	子供は、学校で友達と関わりながら、自分の考えを広げている。	95.4%
【体】 ぐんぐん	子供は、挑戦する気持ちが育っている。	82.2%
	子供は、早寝、早起きをして朝ごはんを食べるなど規則正しい生活ができています。	87.4%
	子供は、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	77.9%
生徒指導・家庭地域との連携	学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	94.8%
	学校は、面談や教育相談などが充実し、相談しやすい。	90.2%
	学校は、学校（学年）だより、ホームページ、ブログ、さくら連絡網等で積極的に情報を発信している。	95.0%
	子供と学校の話をよくする。	90.0%
	地域の人の子供たちを見守ってくれる。	82.6%

○ 教職員の評価

※85%以上A、70～84%B、55～69%C、54%以下D

【徳】 きらきら	じっくり考える子が育っている。	A
	共に学び続ける子が育っている。	A
	主体的協働的な授業を意識して行うことができた。	A
	キャリア教育を意識した授業を行うことができた。	C
	ふるさと学習（総合的な学習の時間）の充実を図ることができた。	B
	ICT学習を進めることができた。	A
【知】 にこにこ	自分らしさを大切にする子が育っている。	A
	人との関わりを大切にする子が育っている。	A
	道徳科授業の充実を図ることができた。	A
	学年集会やペア学年活動等で人と関わる活動を取り入れることができた。	A

	児童会活動では、自分たちのよりよい生活のために何ができるか考えさせ、充実を図ることができた。	A
	異学年交流を行うことができた。	A
【体】 ぐんぐん	進んでチャレンジする子に育っている。	A
	健康な心と体で共に活動する子が育っている。	A
	体育科授業の充実を図ることができた。	A
	日常的に子供たちの体づくりを意識して取り組むことができた。	B
	安全計画を意識して行うことができた。	A
生徒指導・家庭 地域との連携	いじめのない学校・学級づくりに取り組むことができた。	A
	子供や保護者の話をよく聞き、相談や面談を行うことができた。	A
	学年だよりやホームページ、ブログ等で情報を発信することができた。	A
	外部講師や地域の人をつかった活動（授業）を行うことができた。	B

3 今後の改善方策

○「自立と共生」を合言葉に、目指す子供像に向けて教育活動を行ってきた。今までは目指す子供像が2つずつあったが、自立と共生は別々のものではなく、同じ姿であるため、来年度は目指す子供像を1つに絞ってさらに重点的に育てていく。

～内容について～

【徳】児童が自分のよさや可能性を認識し大切にしていけるよう、目指す子供像を「自分のよさを大切にする子」に絞って、道徳科授業と児童会活動を重点活動として高めていく。

【体】児童が自ら挑戦していける力を育てていけるよう、目指す子供像を「進んでチャレンジする子」に絞って、縄跳びカードや鉄棒カード等を使用して日常的に体づくりを行い、体育科の授業を中心に育てていく。

○今年度は、浜松市の研究指定校として新学習指導要領に基づいた授業改善と評価について研究を進めた。新学習指導要領を理解し授業改善を行っていくことで、評価についての考え方が明確になっていった。来年度も研究を継続し、篠原小の子供たちに必要な資質能力を育てていきたい。

○キャリア教育、ふるさと学習については、研究が進んでいない点もあった。特に、ふるさと学習については、今年度6年生が篠原の玉ねぎをテーマに栽培から販売まで学習することができた。初めての取組であるため、来年度さらに深まるよう計画を見直したい。

4 学校評議員による学校関係者評価

○ふるさと学習で、玉ねぎをテーマに学習を始めてくれたことがとてもうれしい。地元のことを是非子供たちに知ってほしい。

○コロナ禍で行事が縮小となっていく中、玉ねぎ収穫を体験したり、6年生が玉ねぎを販売したりと新しい学習にも取り組んでくれた。できないこと削減するだけでなく、できることの中で新しいことに挑戦していくことも大切だと感じる。

○挨拶に関する項目が低いことが残念に感じる。新型コロナウイルスの影響があるのかと感じる。挨拶をしていくことで、自然と前向きな気持ちになり、挑戦する心も育っていくのではないだろうか。

○子供たちの自己肯定感の評価は低い。保護者は肯定感があると評価している。客観的に見るとよいと思えるのに、子供たち自身が感じることができていない面もあるのではないかと感じる。今後は、子供自身がよさを意識できるような指導もお願いしたい。

○ネットなどが普及し、話さなくても通じることも多くなった。しかし、親子で話すことが大切で、自己肯定感や挑戦する子は、そうすることで増えていくのではないかと感じる。

○自己肯定感については、学級で友達の良さを見付ける指導など学校でも努力してくれていることが伝わってくる。自己肯定感は学校だけで育てるのではなく、家庭でも子供のよさを認めて褒めることが大切ではないかと感じる。

○挨拶は、まずは親がすることが大切だと感じる。親を見て子供は挨拶をするようになる。地域で挨拶ができる関係づくりをしていくことも大切ではないかと感じる。

○子供の育ちは、学校教育、家庭教育、社会教育それぞれが大切で、どれか一つだけでできることではない。連携を取りながら、みんなで子供たちを育てていく必要がある。

5 学校関係者評価を受けて

○進んで挨拶できる子の育成については、来年度は委員会の児童が中心になって活動できるよう、【徳】にこにことして取り組みを行う。

○自分のよさを大切にする子の育成については、教員が子供のよさを見付けるだけでなく、子供自身が自分のよさを自覚できるような取り組みを道徳科授業中心に行っていく。

○ふるさと学習については、高学年を中心に篠原の玉ねぎをテーマにした学習をさらに深めていきたい。ふるさと学習を進めるには、地域の人材と繋がっていくことが大切であるため、地域との連携を深めていく。

○学校教育だけでなく、家庭や地域と連携しながら子供たちを育てていきたい。そのために、学校での児童の活動や表れを発信していく。